碧南市大浜地区　　2004.12.21

三尺路地に歴史の重みを感じる街

12 月 21 日碧南市大浜地区を歩いてきました。この地区は戦災をまぬかれたおかげで三尺路地と呼ばれる細い道が入り組み、昔ながらの風情漂う おちついた街並みを残しています。

港、寺、路地の再発見

地区の西の端に大浜漁港を持ち、寺が多く 1km 四方に 16 もある。さらに 一帯は名水も多く醸造業が発達した。九重味醂は 1772 年の創業で大きな 蔵は当時の建物だ。黒い板塀と白い漆喰壁、地元名産の三州瓦でふいた 屋根の対比が美しい。西方寺近くの『大浜まちかどサロン』では、観光客向けに散策用の地図 を用意している。他にも寺社や旧跡のパンフレットがたくさん用意されており、とても参考になった。

この区域を歩いてきました

大浜まちかどサロン

大浜漁港　三角の建物はレンガ造りの昔の保冷庫

家康ゆかりの称名寺

この寺は南北朝時代の 1339 年の創建といわれる歴史を持ち、室町時代は 地頭職として大浜湊を支配していた和田氏が本堂を建立した。
戦国時代中期より松平氏が大浜を治めるようになり、家康の父広忠が連歌会で詠んだ「めぐりはひろき園の千代竹」から家康の幼名がつけられたという。現在寺には、県指定文化財の木造聖観音菩薩立像をはじめ、多くの文化財が保存されている。境内には松平氏の墓やかやぶきの本堂、宝物殿がならびさらに東照宮が新しく建立されている。

いつものポーズで.....

竹千代、命名の由来

珍しい地蔵様六角堂

薬師堂のまえにある一見、灯篭のように見えるが実は六角堂というお地蔵 である。中に六つの地蔵様が見える。地震や台風で何度も壊れたが、そのたびに修理されてきた。昔は薬師堂より前にあって、六角堂を囲んで盆踊りなども行われていた。市内には他にも六角堂はあるが、このような小型で六体の地蔵様を安置するものは大変珍しい。

手前は灯篭ではなく、お地蔵様なのだ

称名寺にある徳川家の墓

歩いて暮らせる街づくり

大浜まちかどサロンに寄って散策用の地図、パンフレットをもらいいろいろな情報を仕入れた。ここはお茶のサービスもありパソコンコーナーもあり、トイレがある。この場所に史跡、名勝などの展示コーナーがあればもっといいのではないかと思った。商店街では多くの人に来てもらうために、商店主、かみさんたちの知識、情報、経験をいかし町全体で協力しあう『町の駅』を企画した取り組みがパンフレットになり、散歩地図には『大浜地区歩いて暮らせる街づくり』の見出しがおどっていた。
なかなかよくできたパンフレットで、これを見るだけで大浜地区の歴史が分かる立派なものだった。

清沢満之(きよさわまんし)と西方寺

今回の目玉はここ西方寺だ、これまでまったく知らなかった清沢満之とは。一言で言うとこうだ……
葬儀場には清めどころがあり、会葬お礼の封筒には『清め塩』の小袋が入っている。これは死が穢れているため、塩で清めるというのだが....。『生のみが我にあらず、死もまた我なり』の考えから清め塩は不要であることを訴えた。現在真宗大谷派では、清め塩の廃止に取り組んでいる。ほかにも四日市市では 6 年前に各宗派の 196 寺が廃止を決議しているそうだ。

秀才がゆえに短命だった

清沢満之は 26 歳で京都中学の校長を務める秀才だった、しかし 32 歳のとき結核をわずらい 35 歳のとき西方寺に戻る。彼にとって死は観念ではなく、身に迫った現実となっていた、そのなかで生きることの意味を考えぬいた。

清沢満之の墓

太鼓堂が残る

それが『生のみが我にあらず、死もまた我なり』の言葉となった。この背景となったのは、明治政府による神仏分離令が出て仏像や経典の破壊が広がったことがある。東京帝国大学でフェノロサに哲学を学び、仏教の復興に情熱をそそいだ。そして 40 歳を目前にして亡くなるが、その直前には真宗大学(後の大谷大学)の初代学長を務めた。
西方寺は明治初期には学校としても使われた、やぐらのある太鼓堂がのこる三河でも有数の大寺である。

戦国武将永井直勝と宝珠寺

宝珠寺は 1543 年創建の曹洞宗。長田平右衛門重元が阿弥陀如来を祀ったのが寺の始まりである。
江戸時代初期の医聖永田徳本は重元の弟で、この地に生まれたという。本堂の裏手には徳本稲荷が祀られ、徳本の記念碑も建てられている。
重元の八男直勝は家康に仕え永井と改め、後に常陸の国笠間 3 万 2000 石の城主に、さらに下総国古河 7 万 2000 石の城主にまでなった。庭には県の建てた記念碑がある。

県の建てた記念碑

通りには立派な石柱があった

しかしここのお寺は山門はもちろん建物に、寺名の看板がみあたらない。宝珠寺のはずだがと探したら、通りの入り口に石柱があった。われわれは裏手から入ったので分からなかったしだい。それにしても山門の看板が外されているのは解せない。

倉庫がならぶ大正通り

碧南駅の左手は三河線が、大正 3 年に開通したとき整備されたものでその名も大正通りと呼ばれている。道の両側には伝統産業のみそ、しょうゆの仕込み倉庫が立ち並び中には仕込み樽も見える。ここも見学させてもらえるといいのに。

大正通り

味噌、醤油の樽が並んでいる

大浜陣屋

旗本水野忠友は 1768 年若年寄に出世して, 1 万 3000 石の領地をもらい大浜に陣屋を構えた。その後忠友は側用人となり沼津に移ったが陣屋は残された。

説明の看板くらいほしい陣屋跡

本伝寺の大銀杏

すばらしい彫刻と大銀杏

天台宗より真宗に転派した本伝寺には、1829 年本堂改築時に植えたといわれる大銀杏がある。そして立派な彫刻の山門がすばらしい。

すばらしい彫刻

本伝寺入り口

こんなものがありました

旧大浜警察署の前にバロメートルなるモノが。漁業の町だった遺物で昔は天気予報も十分でなかったために、自分たちで気圧を測り出航のぜひを判断したものと思われる。

気圧を測定するバロメートル